

# 地域と学ぶ

山形大学地域教育文化学部

地域教育文化学部で2013年度に始まった授業科目の一つ・フィールドプロジェクトが本年度から必修化された。授業など座学で学んだ「知」を「実践」へつなぐことが大きな目的である。フィールドプロジェクトは「地域文化交流」や「地域貢献」など11のテーマからなり、学生は興味があるテーマを一つ選択して1年間履修する。私はこの中で「科学体験教室」を担当している。「科学体験教室」は、1998年度から地域の教育文化支援として取り組んできたフレンドシップ事業「おもしろ実験教室」の後継事業として山形市理科教育センターと共に実施している。履修する学生にとって初めて経験する実践的な内容であ

物理学・応用光学 津留 俊英 准教授

▽1972年生まれ、山形市出身。山形大着任は2012年。



## 実験で理科好きの子育成

り、理科の教材開発能力の向上が期待される。また、実験教室の企画や運営を通して、教育実習では得られないスキルの獲得も目指している。「理科離れ」が叫ばれて久しいが、毎回募集人数を超える小中学生が分光器作り、化学マジック、顕微鏡作り、化石採集など通常の授業では体験できない趣向を凝らした内容を体験している。中には実験教室を楽しみにしているリピーターもいるため、できるだけ内容が重複しないように努力している。一方、体系的かつ連続的な科学講座として、本学理学部、県教育委員会、県教育センター、県商工労働観光部などが連携し、昨年度から「ヤマガタサイエンスアカデミー」を開校し、理科好きな児童・生徒の力を伸ばす活動を行っている。子どもたちの自発的な探究型の学習を通して将来の山形を支える人材を育成する

ことが狙いである。子どもたちが見せる笑顔に、学ぶことの原点が垣間見える。理科の授業にありがちな公式や法則などの暗記にとらわれることなく、科学教室では科学の不思議さや面白さを思う存分実感してもらいたい。

11月1回掲載します

手作りの分光器を手に、光が分解される様子を観察。山形市・山形大小白川キャンパス